

第25回 市長と話そうの様子

開催日時	2026年4月7日（火） 15:00 ～ 16:30	場所	臼杵市役所 臼杵庁舎1階 大会議室
団体名	三輪流臼杵神楽保存会		
団体概要	臼杵市に古くから伝わる伝統芸能「三輪流臼杵神楽」の継承と普及を目的として活動する団体です。15名のメンバーで市内各神社の祭礼や神事への奉納のほか、臼杵祇園祭でも舞を披露しています。 三輪流臼杵神楽・・・臼杵市に古くから伝わる神事芸能のひとつで、市内各神社の祭礼時に奉納されています。大分県内に広く分布する岩戸神楽とは異なり、いわゆる採物神楽（とりものかくら）で、右手に鈴、左手に櫛や幣、または弓や刀などを持って舞う神楽で、氏子の繁栄や五穀豊穡、家内安全などを祈って奉納されます。		
話し合いのテーマ	・後継者の育成について ・伝統芸能の継承に向けた市民への広報について		
参加者	7名（団体メンバー6名、西岡市長）		

対話の様子

対話では、三輪流臼杵神楽の後継者の育成や伝統芸能の継承などについて意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

- ・ 15名のメンバーの内、70代が4名で全体的に高齢化が進んでおり、後継者不足が重要な課題となっている。伝統を維持しつつも、若い世代に少しでも興味を持ってもらう方法を模索したい。
- ・ 三輪流臼杵神楽は昭和55年に県指定無形民俗文化財へ認定。昭和60年にはこども神楽が発足し、かつては20～30名の児童が活動していたが、コロナ禍以降は活動を停止し、現在ではこどもの参加がほぼ途絶えている。
- ・ コロナ禍が落ち着いた後、臼杵地域の全小中学校で子供神楽のメンバー募集チラシを配布したが、残念ながら申し込みはなかった。神楽の練習は厳しいイメージがあるかもしれないが、現在はこどもたちが楽しく学べるような指導を心がけている。
- ・ 令和8年1月に大分県が県内の伝統ある民俗芸能団体を集めて開催した「大分民俗芸能まつり」では、「臼杵にのみ残る珍しい静かな御神楽（みかぐら）」として、三輪流臼杵神楽が代表に選出された。会場のいちこグランシアタで、当神楽が県指定無形民俗文化財となるきっかけとなった「反問（へんばい）」を披露した。
- ・ 御神楽は、魅せるための神楽というよりも、神事としての側面が色濃く残っている。
- ・ 各地区の神社は、かつては地域的一大イベントであるお祭りを開催する場所だったが、人口減少・高齢化・経費負担等の問題から、祭りを維持できない地区が増えており、神社の維持そのものも困難になりつつある。
- ・ 「自分たちがまだ動けるうちに、次世代へ技を伝えたい」という強い思いを抱いて活動している。こども達への橋渡しや活動のPRといった側面で、行政にもご協力いただきたい。

市長からは、以下のような話がありました。

- ・ 臼杵には豊かな歴史文化が根付いており、この貴重な文化をいかに次世代へ継承していくかが重要な課題となっている。
- ・ 稲葉家下屋敷で行うインバウンド向けのパーティプランで「USUKI VENUE（ウスキベニュー）」という商品がある。下屋敷を舞台に臼杵の歴史と食文化を体験できるプランだが、その中で伝統芸能（町八町の若衆による祇園囃子や平清水獅子舞）を鑑賞するオプションがあり、海外観光客から非常に好評を得ている。そういった場面で三輪流臼杵神楽を披露するのも活動のPRとして良いかもしれない。
- ・ 本日いただいたご意見や課題については、しっかりと受け止めていきたい。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行っていきます！

